

誰でも表現者発信者

講師
藤川 大祐

今回学ぶこと

かつては、多くの人に情報を伝えるには新聞やテレビなどのマスメディアを利用することが中心でしたが、インターネットが普及して以降、多くの人が容易に広く情報発信することが可能となっています。文字や写真での情報発信はもちろん、コンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティなどの技術が使いやすくなり、表現方法も多様化しています。今や、多くの人にとって、情報はメディアを通して受け取り消費するだけのものではなく、自分たちから発信するものでもあります。市民からの情報発信活動も盛んになっています。自分が発信したい内容を、自分に合った方法で発信することができるように、新しい技術を活用した発信の例から学びましょう。

番組を見る前に知っておこう

コンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティ、AR、
Vチューバー、白黒写真のカラー化

表現活動の多様化

情報伝達の手段が、メディアです。インターネット普及以前によく使われていたメディアと言え、新聞やテレビなど、多くの人（大衆、英語で mass）を対象にしたマスメディアが中心でした。1990年代にインターネットが普及して以降、ホームページ、ブログ、SNS、動画投稿サイトといったインターネット関係のサービスが広く使われるようになり、一般の人が手軽に情報発信できるようになっています。

デジタル技術の発展により、一般の人がスマートフォンやパソコンを使って利用できる表現手段は、文字や写真だけでなく、コンピュータグラフィックス（CG）、バーチャルリアリティ（仮想現実、VR）、拡張現実（AR）など、多様になっています。

誰でも表現者

インターネットのサービスを使えば、誰でも自分が発信したい内容を、自分に合った表現方法を使って発信できるようになりました。たとえば、バーチャルユーチューバー略してVチューバーと呼ばれる人たちは、スマートフォンやパソコンの専用アプリを使って、自分の表情などをリアルタイムで別のキャラクターに変換して、アニメーションの形でおしゃべりなどを配信することを行っています。見た目をアニメーションにすることによって、独特の表現ができるようになっています。

もちろん、新しい技術を使っているとしても、メディアを通して発信する時には、個人情報を漏らさない、他人を傷つけることは言わないといったことに注意する必要があります。

市民からの情報発信

市民が多様な技術を活用して情報発信することも、盛んになっています。たとえば、広島の高校生、庭田杏珠さんと、東京大学教授の渡邊英徳さんが共同で開発したスマートフォンアプリ「記憶の解凍」は、戦前や戦時中の白黒写真をAI（人工知能）を使ってカラー化することによって、かつての風景が白黒からカラーに変化して表示されるようにしています。また、広島の平和公園でアプリを風景にかざすと、AR（拡張現実）で平和公園の風景に写真撮影場所までの道案内が表示されたりします。

SNSや動画投稿アプリの普及で、文字や写真、動画を発信することはすでに当たり前になっています。こうしたことに加え、アプリを作って配信するという形の情報発信をする人も増えています。市民が伝えたいことを効果的に伝えるために、多様な表現方法が使われるようになっています。